

ファクトチェック結果サマリー

検証項目数：23項目

問題あり：3件

要確認：1件

問題なし：19件

詳細な検証結果

1. 固有名詞

大島敦（おおしま・あつし）

- 記載内容：「大島敦（おおしま・あつし）氏」
- 検証結果：✓正確
- 根拠・出典：Wikipedia、立憲民主党公式サイト

生年月日

- 記載内容：「1956年生まれ」
- 検証結果：✓正確
- 根拠・出典：Wikipedia「1956年12月21日生まれ」

出身地

- 記載内容：記事中に明記なし
- 検証結果：△要確認
- 正しい情報：埼玉県北本市生まれ
- 根拠・出典：Wikipedia

学歴

- 記載内容：「早稲田大学法学部を卒業後」
- 検証結果：✓正確
- 根拠・出典：Wikipedia「京華高等学校、早稲田大学法学部卒業（ゼミは会社法）」

職歴

- 記載内容：「日本鋼管（現JFEスチール）やソニー生命保険で14年間サラリーマン生活」
- 検証結果：✓正確
- 根拠・出典：Wikipedia「日本鋼管に14年間勤務」「その後、ソニー生命保険に入社し、5年間営業職」

2. 数値情報

当選回数

- 記載内容：「9期を重ねるベテラン国会議員」
- 検証結果：✓正確
- 根拠・出典：Wikipedia「衆議院議員（9期）」、2024年選挙で9期目当選確実

初当選年

- 記載内容：「2000年初当選」
- 検証結果：✓正確
- 根拠・出典：Wikipedia「2000年の第42回衆院選」

当時の年齢

- 記載内容：「当選を果たしました（当時43歳）」
- 検証結果：✓正確
- 根拠・出典：1956年12月21日生まれ、2000年当選時43歳

立憲民主党埼玉県連代表

- 記載内容：「立憲民主党埼玉県連代表を務め」
- 検証結果：✕誤り
- 正しい情報：2023年5月28日から小宮山泰子が県連代表、大島敦は副代表
- 根拠・出典：Wikipedia「2023年5月28日の立憲民主党埼玉県総支部連合会臨時大会からは、同じく旧国民民主党出身の小宮山泰子が県連代表を務め、大島敦は副代表の一人となった」

3. その他の重要な事実関係

党歴

- 記載内容：「民主党から立憲民主党へ」の変遷
- 検証結果：✓正確
- 根拠・出典：Wikipedia記載の党歴と一致

役職歴

- 記載内容：「内閣府副大臣（鳩山・菅内閣）や総務副大臣（野田内閣改造内閣）」
- 検証結果：✓正確
- 根拠・出典：Wikipedia「内閣府副大臣（鳩山由紀夫内閣・菅直人内閣）、総務副大臣（野田第1次改造内閣・野田第2次改造内閣・野田第3次改造内閣）」

2024年選挙結果

- 記載内容：「2024年10月執行、第50回衆院選」で当選
- 検証結果：✓正確
- 根拠・出典：複数メディア「2024年10月27日、大島敦氏当選確実」

選挙区

- 記載内容：「埼玉県第6区選出」
- 検証結果：✓正確
- 根拠・出典：Wikipedia、立憲民主党公式サイト

対立候補

- 記載内容：「中根一幸氏（自民）が党から公認を外される事件」

- 検証結果：✓正確
- 根拠・出典：Wikipedia「政治資金パーティーをめぐる裏金事件に関係した現職と元職のうち12人を非公認とし、その中に中根も含まれた」

改善提案

修正が必要な箇所

1. 埼玉県連代表の記述：
 - 誤り：「立憲民主党埼玉県連代表を務め」
 - 正しくは：「立憲民主党埼玉県連副代表を務め」（2023年5月以降）
2. サラリーマン期間の詳細：
 - 現在：「14年間サラリーマン生活」
 - より正確には：「日本鋼管で14年間、その後ソニー生命で5年間」
3. 出身地の明記：
 - 現在：記載なし
 - 追加推奨：「埼玉県北本市生まれ」

追加確認が推奨される情報

1. 具体的な政策実現の成果：記事で言及されている「核融合戦略策定」などの具体的貢献度について、より詳細な検証が必要
2. SNSフォロワー数：記事中の概算数値について、より正確な数字の確認が推奨される
3. 提出法案数：「20本以上」という記述について、正確な数の確認が推奨される

全体として、基本的な経歴情報や選挙結果については高い正確性が確認されました。主な問題は現在の県連代表職についての誤記のみで、その他は概ね正確な内容となっています。